

2023



都市政策懇話会の様子

草津市 総合政策部 草津未来研究所

令和5年度事業報告書



社会実験準備事業の様子

目 次

I	草津未来研究所について.....	1
II	事業成果.....	2
1	調査研究活動.....	2
	(1) シンクタンク機能.....	2
	(2) データバンク機能.....	5
2	人材育成活動.....	6
	(1) プラットフォーム機能.....	6
3	情報発信にかかる活動.....	16
4	その他の活動.....	17
III	運営体制.....	20

I 草津未来研究所について

草津未来研究所は2010(平成22)年4月1日に設立し、以下の目的により自治体内の研究所として活動をしている。

【目的】

草津市の未来を見据えた創造力ある政策を提案し、草津市の政策審議機能の充実に寄与する。

【活動】

草津未来研究所の活動は、本市の政策課題に即しながら、課題解決や政策立案等の政策形成に結びつく調査研究活動と、職員の政策形成能力の向上および草津市の未来を担う人材育成を目指す人材育成活動の2本柱で運営している。また、これまでの活動に対する評価を踏まえ、現在は「シンクタンク機能」と「プラットフォーム機能」の2つの機能に重点を絞った展開を図っている。

調査研究活動	① シンクタンク機能	・実践的で戦略的な政策提案
	② データバンク機能	・政策情報の収集・分析・蓄積・発信 ・政策情報の指標化・論点整理
	③ コンサルティング機能	・担当課の業務支援(2018(平成30)年度から休止)

人材育成活動	① プラットフォーム機能	・市民(地域)と学生との連携を生み出す場の形成等 ・アーバンデザインセンター ¹ びわこ・くさつ(UDCBK)の事業運営
	② トレーニング機能	・調査研究活動を通じた人材育成 (2019(令和元)年度から休止)

¹ アーバンデザインセンターは、行政都市計画や市民まちづくりの枠組みを超え、地域に係る各主体が連携し、都市デザインの専門家が客観的立場から携わる新たな形のまちづくり組織や拠点として、2024(令和6)年4月現在、全国26の拠点(うち2拠点は活動終了)で展開している(UDC Initiative HP参照)。また、アーバンデザインセンターびわこ・くさつ(UDCBK)では、産学公民が連携しながら、草津の未来のまちのデザインを考える取組を行っている。

Ⅱ 事業成果

新型コロナウイルス感染症による感染拡大に伴い、ここ数年実施方法の変更などの対応を行っていたが、本年度は調査研究報告会を開催するなど、コロナ前の対応に戻して活動を実施した。

1 調査研究活動

(1) シンクタンク機能

① 調査研究

(a) 草津市における高齢者を中心とした孤独・孤立に関する調査研究

新型コロナウイルス感染症が蔓延し、社会とのつながりが希薄化したことで、孤独・孤立の問題がより一層深刻な社会問題となっていることから、我が国では、孤独・孤立対策担当大臣を新設し、内閣官房に設置した孤独・孤立対策室を中心に孤独・孤立に対する取組を開始した。孤独・孤立については、確立した定義が存在せず、研究の都度、目的に応じて定義づけされているが、国では「孤独・孤立の重点計画」において、孤独・孤立をそれぞれ別のものとして示しており、本調査研究においても、孤独を「個人にネガティブな影響をもたらす主観的な感情」、孤立を「個人に他者とのつながりがない客観的な状況・他者との交流がない状態」として扱った。

本市の高齢者の孤独・孤立状況を確認するために、過去に本市が実施した調査結果を経年比較し再分析したところ、本市においては、コロナ禍による高齢者の状況は変化していなかった。

現状を把握するために、中高年以上を対象に市民アンケート調査を行ったところ、本市における孤独・孤立の状況は全国と比べると深刻とはいえない状況であったが、80歳以上の高齢者における孤独・孤立の割合が高く、地域によって孤独・孤立の状況が異なっていた。単身世帯の孤独・孤立割合は単身世帯以外よりも高く、今後はさらに単身世帯の増加が見込まれていることから、孤独・孤立問題の増加が懸念される。

本市における孤独・孤立対策は、他施策に包含されているが、現在の体制・施策のみで孤独・孤立問題に対応していくことができるのか、今一度考える必要がある。まずは市全体で孤独・孤立の問題や現状の理解を深めることが重要であり、様々な世代の孤独・孤立問題にどう対応していくのか、早急に考えていかなければならない。

(b) 健幸都市くさつの実現に向けた取組に関する調査研究

－草津市民および大学生の特徴に着目して－

草津市は、市民一人ひとりが生きがいを持ち、健やかで幸せに暮らすことができる社会の実現を目指すため、2016(平成28)年8月に草津市健幸都市宣言を行い、取組を進めてきた。2023(令和5)年3月に策定した草津市健幸都市づくり基本方針では、「健康寿命の延伸」と「健幸に暮らせていると思う市民の割合の増加」を目標に掲げ、健幸都市づくりを展開していくこととしている。

現在、本市の平均寿命および健康寿命は、男性・女性ともに県内第1位で、全国平均と比較しても上回っている。しかし、本市でも高齢化が進む中においてこの状況を維持し、平均寿命と健康寿命の差が拡大しないよう、市民の健康寿命を延ばす取組がより重要となってくる。また、身体的な健康と幸せには密接な相関関係があると考えられ、身体的な健康に関わる施策だけでなく、幸せや生きがいづくりにつながる施策についても、連携しながら展開していくことが望ましい。

そこで、本調査研究においては、草津市民等における健幸に関する特徴を明らかにするため、草津市民と立命館大学びわこ・くさつキャンパスに所属する学部生をそれぞれ対象にWEBで実施した「健幸に関するアンケート調査」の他、18～74歳の草津市民を対象にした「市民の健康に関するアンケート調査」、また立命館大学から「学生定期健康診断結果」のデータを提供いただき、分析を試みた。

アンケート調査結果について、草津市民と大学生を比較したところ、多くの質問項目について同じような傾向を示した。

主な特徴としては、若い年齢区分で毎日朝食を食べる割合が他の年齢区分に比べて低い傾向があり、健康習慣の中では運動と睡眠に関して、適正な習慣に該当する人の割合が低かったり、できていないと思う人の割合が高かった。

また、健康状態がよいと考えている割合は高いが、実際に健康習慣を全て実践できている人の割合は低いこと、健康習慣を実践できていない人の中でも、健康づくりに関心のある人や生活習慣の改善の考えがある人は多く存在した。

幸せに関しては、幸せだと感じている人が影響を受けたものとしては、「身体の健康」「心の健康」「家族」および「恋人・友人」の割合が高く、幸せにつながる活動として「家族」や「恋人・友人」との交流など、身近な人との交流を回答する割合が高かった。

健康づくりに関する情報の入手方法としては、「SNS」「インターネット」の回答割合が高いが、無関心層では「特に知ろうとしていない」の割合が全国と同様に高い結果であった。

このようなアンケート調査結果の特徴などから、本調査研究では、基本方針の目標である「健康寿命の延伸」と「健幸に暮らしていると思う市民の割合の増加」につながるよう、「健やか」「生きがい・幸せ」「絆・つながり」の分野に着目し、「歩くことを中心にした施策の展開とデジタル技術の活用」「生活習慣の改善に向けた啓発および取組の研究」「興味・関心のあることで社会と関われる仕組みづくり」「人々のつながりを構築する複数の仕掛けづくり」「無関心層へのアプローチ」に関連した取組を取り上げた。

今後の課題としては、健幸都市くさつを着実に推進し、みんなが生きがいをもって、健やかで幸せな暮らしができるまちを実現するには、健幸都市くさつとして、どのような状態を目指しているのか将来像を明確にしておくことが必要で、本市の健幸都市の実態を継続的に把握し、現在の状態が、本市が目指す健康都市の将来像に対してどの位置にあるのか、またどの分野に課題があり改善していけば良いのか、市民は健幸に対して何を求めているのかを把握・分析し、有効な施策を展開していくことが必要であると考えます。

② 都市政策懇話会

中長期の都市づくりに関して広域的かつ横断的な視点から、その目指すべき方向性や具体的な方策について、有識者や未来研究所役員(学識経験者)の「知」の活用を図り、理事者の政策判断に寄与することを目的とした懇話会を開催した。

【開催内容】

開催日	内 容
11月20日	テーマ「ゼロカーボンシティくさつの実現をめざして」 ・市民、事業者、団体等と市の協働により、地域の地球温暖化対策を進めてきた実績をベースに、ゼロカーボンシティくさつの実現に向けた施策を展開していくが、2050年カーボンニュートラルの実現に向けては、初動の5年から10年間の期間が重要である。ゼロカーボンシティくさつの実現のためには、温室効果ガスの一排出事業者としての市の取り組みのみならず、市民、事業者、団体等との協働による市域全体の「脱炭素社会への転換」が不可欠であるが、その優先順位や時期を含めた方策等について幅広い知見からの示唆が必要なため開催した。

【出席者】

区 分	氏 名	役 職
話題提供者	橋本 征二	立命館大学理工学部教授
学 識 経 験 者	天野 耕二	立命館大学食マネジメント学部長
	肥塚 浩	立命館大学大学院経営管理研究科長
市 側	橋川 渉	草津市長
	山本 芳一	草津市副市長
	辻川 明宏	草津市副市長
	田中 三男	環境経済部長
	太田 一郎	環境経済部副部長
	古川 久行	環境経済部副部長
	永原 長吾	環境経済部温暖化対策室長
	小川 卓史	環境経済部資源循環推進課長
	岡田 芳治	総合政策部理事
立命館大学	松原 修	立命館大学BKC事務局長
	布施 亮介	立命館大学BKC地域連携課担当課長
事 務 局	角 一朗	総合政策部草津未来研究所副所長
	山本 一成	総合政策部草津未来研究所統括研究員
	田中 祥温	総合政策部草津未来研究所参与

(2) データバンク機能

① 地域別人口推計

住民基本台帳人口に基づく、市域全体と学区・地区別の将来推計人口を算出した。

推計の方法：コーホート変化率法を基本に推計

(1,000 m²以上、50 戸以上の開発を考慮)

基準日：各年 3 月 31 日

地域の単位：14 小学校区

② 政策情報の整理

住民基本台帳に基づく人口と世帯に関するデータの追加・更新を行った。

2 人材育成活動

(1) プラットフォーム機能

① 環びわ湖大学・地域コンソーシアム

環びわ湖大学・地域コンソーシアムの「大学地域連携課題解決支援事業」として、草津市関係では下記の事業が採択された。

連携大学	自治体担当課	活動テーマ
立命館大学 理工学部	都市計画部都市地域戦略課	キャンパス周辺の地域資源を活かしたウォークアブルなまちづくり

「環びわ湖大学地域交流フェスタ 2023」の活動報告会については、昨年度に引き続きオンラインで実施され、2023(令和5)年11月26日開催の当該報告会に参加した。

② 包括協定大学等との連携推進

大学等の教育機関の「知」を活かし、相互連携を図りながら地域の活性化を推進するため、草津市と包括協定等を締結している7大学1高等学校と各種事業を行った。

草津市と大学等との包括協定に関する連携協力事業の実績と計画 集計

	令和4年度 実績									令和5年度 計画								
	立命館大学	滋賀大学	成安造形大学	京都橋大学	滋賀県立大学	滋賀医科大学	龍谷大学	湖南農業高校	合計	立命館大学	滋賀大学	成安造形大学	京都橋大学	滋賀県立大学	滋賀医科大学	龍谷大学	湖南農業高校	合計
イベント協力	11	0	0	0	0	0	0	5	16	13	0	0	0	0	0	0	7	20
インターンシップ	1	0	0	1	0	0	0	0	2	4	0	0	2	0	0	0	0	6
共催・後援事業	10	6	0	2	0	0	0	0	18	16	4	1	1	1	1	1	2	27
業務委託	5	0	0	2	0	0	0	0	7	4	0	0	2	1	0	0	0	7
講師依頼	6	0	0	0	0	0	1	0	7	2	0	0	0	0	0	0	0	2
審議会等委員依頼	57	9	4	6	11	3	19	3	112	54	7	4	4	11	3	17	2	102
補助事業	3	0	0	2	0	0	0	1	6	3	0	0	0	0	0	0	1	4
合計	93	15	4	13	11	3	20	9	168	96	11	5	9	13	4	18	12	168

③ アーバンデザインセンターびわこ・くさつ(UDCBK)事業

(a) アーバンデザインセンターびわこ・くさつ事業運営懇話会

アーバンデザインセンターびわこ・くさつ(UDCBK)事業の運営方針の検討、運営状況の確認等を行うとともに、法人化の妥当性について助言をいただくことを目的に設置した。

【アーバンデザインセンターびわこ・くさつ事業運営懇話会委員】

区分	氏名	所属・役職
座長	肥塚 浩	立命館大学大学院経営管理研究科長・草津未来研究所顧問
副座長	加藤 幹彦	草津商工会議所専務理事
委員	岡井 有佳	立命館大学理工学部教授 (アーバンデザインセンターびわこ・くさつセンター長)
	高田 剛司※	立命館大学食マネジメント学部教授 (アーバンデザインセンターびわこ・くさつ副センター長)
	田畑 泉	立命館大学 BKC 地域連携室長 (スポーツ健康科学部教授)
	清家 理	立命館大学スポーツ健康科学部教授
	神部 純一	滋賀大学教育学部教授
	東野 輝夫	京都橘大学副学長 (京都橘大学工学部教授)
	秦 憲志	滋賀県立大学地域共生センター主任調査研究員
	磯部 義明※	滋賀医科大学研究戦略推進室産学連携推進部門長 特任教授
	木村 睦	龍谷エクステンションセンター・センター長 (龍谷大学先端理工学部教授)
	中野 宗城※	草津市まちづくり協議会連合会副会長
	有村 敬三	パナソニック株式会社アプライアンス社 人事・総務センター総務部総務一課長
	正木 秀行※	株式会社滋賀銀行南草津駅前支店長
	笠井 真弓	公募委員
	木村 沙妃	公募委員
小林 幸絵	公募委員	
卓 慧宜	公募委員	

任期：2022(令和4)年6月1日～2024(令和6)年5月31日

※任期途中で委員変更あり

【アーバンデザインセンターびわこ・くさつ事業運営懇話会の開催】

	開催日	内 容
第1回	5月31日	・2022(令和4)年度事業実施報告 ・2023(令和5)年度実施予定事業(案)
第2回	12月14日	・2023(令和5)年度実施事業(中間報告) ・今後のUDCBKのあり方について
第3回	書面報告	・2023(令和5)年度事業実施報告 ・2024(令和6)年度実施予定事業について

(b) 事業プロジェクト

ア. 都市デザイン連携プロジェクト

多くの都市で街路空間を車中心から“人中心”の空間へと再構築し、沿道と路上を一体的に使って人々が集い多様な活動を繰り広げられる場へとしていく「街路空間の再構築・利活用」により居心地が良く歩きたくなる街路づくり実現に向けた取組みが進められている。UDCBKとしても長期的な見通しを持って、南草津エリアの中心となる南草津駅周辺における、ウォーカブルなまちづくりの推進に向け、関係部署と連携しながら取組みを進めた。

都市デザイン連携プロジェクトでは公共空間と民間施設との連携に着目し、「南草津駅周辺の公民連携空間の利用促進」と住民や駅を利用される皆さんが交流・滞在ができる空間としての公園に着目し、「南草津駅周辺の公園を中心としたまちづくり」をテーマとして事業展開を図った。

イ. 都市と交通プロジェクト

南草津駅周辺の交通対策として、令和2年度から令和3年度にかけ2回にわたる県・市の交通社会実験が行われ様々な課題や改善につながる糸口などが見えてきたところであり、草津市としても課題解決に向けた短期的な取組だけでなく、中長期的な視点に立った対策についても検討を進めているところである。

UDCBKとして、10～20年後の「歩いて暮らせるウォーカブルなまち」南草津の実現に向け事業展開を図る。

ウ. 大学生が住むまちプロジェクト

草津市は約7,000名以上の大学生が居住する都市でもあり、安全安心・快適な草津市のまちづくりにとって学生は重要な担い手でもある。オフキャンパスである地域で大学生が市民として生活し、大学生と地域の人びとが交流を通じてお互いに成長できるまちをつくることは地域の魅力を高めることに繋がる。立命館大学 BKC 地域連携課と連携を進め課題の共有を図りつつ、BKC のフロントゾーンにおける地域連携の展開も含めて共同の取

組みを追求する。

3つの事業プロジェクトを進めていくための主な取組として、都市デザイン構想事業(都市デザインマネジメントスクール・アーバンデザインセミナー)、社会実験準備事業等を実施した。その他にも産学公民が連携した事業も随時実施し事業プロジェクトを進めた。

(c) 都市デザインマネジメントスクール(産学公民連携の提案型スクール)

都市デザイン・まちづくりに関することをテーマに、ワークショップや社会実験を実施し、事業を効果的に進めるための専門家による講義等も加え、参加者による提案を市に対して行うことにより、施策への反映を目的に事業を実施する。

《令和5年度テーマ》

『10年後、20年後を見据えた南草津駅周辺における車から人中心の利用したくなる居心地のよい都市デザイン・まちづくりを考える』

	開催日	内容	参加者数
第1回	9月1日 ワークショップ	『南草津駅前についてふりかえろう』 南草津駅前の課題や魅力について参加者で意見の共有を行った。	44人 (FU 5人)
第2回	9月27日 ワークショップ	『課題を解決し、新しい南草津駅を考えよう』 南草津駅前の課題の解決に向けて話し合い、構造的な解決のアプローチについて意見を出し合った。	40人 (FU 5人)
第3回	10月31日 ワークショップ	『計画図を元に社会実験について話し合おう!』 参加者からの意見をもとにとりまとめた図面を見ながら、居心地のよい空間利用に向けた社会実験の内容について検討・企画を行った。	43人 (FU 2人)
第4回	11月12日 社会実験	『社会実験の実施』 第3回のスクールで企画した社会実験の実施ととりまとめた図面の実際の大きさなどを体感してみた。	26人
第5回	12月19日 ワークショップ	『まとめ』 これまでに実施したワークショップと社会実験をふまえた市への提案に向けた取りまとめを行った。	35人
報告会	2月6日 市へ提案	『スクールの成果報告』 全5回のワークショップや社会実験をふまえ取りまとめた南草津駅周辺の案を市の関係部署にスクールの成果として提案した。	20人

※開催日において参加できない方を対象に各回にフォローアップ(FU)を実施した。

<スクールの様子>

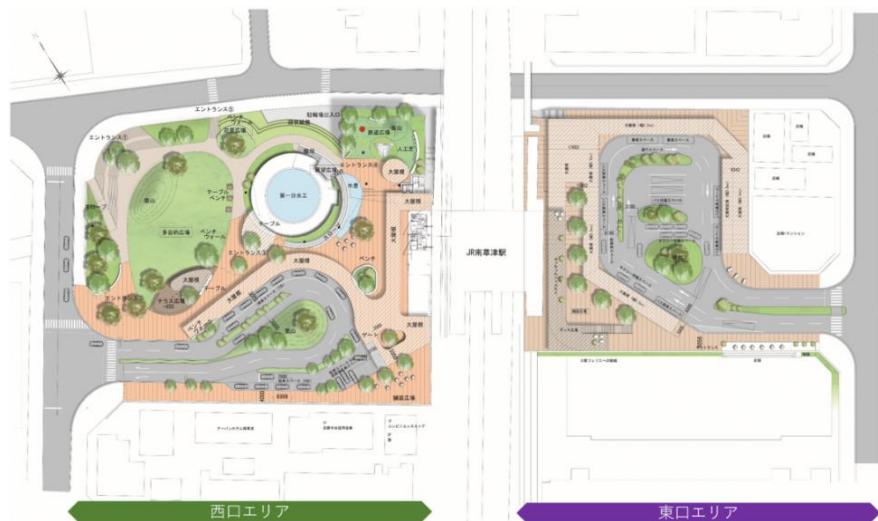


《UDCBK でのワークショップの様子》



《南草津駅西口での社会実験の様子》

<市関係部署への提案図面>



(d) アーバンデザインセミナー（年間 4 回）

広く市民がアーバンデザインを身近に感じることができるよう、テーマごとの相互学習の場と機会を提供する。

令和5年度は「先端技術を活かしたまちづくり」をテーマとして、講演者から先端技術・先進的な研究の紹介とそれらを活かしたまちづくりについてご講演をいただき、その導入の可能性について参加者とともに考えるセミナーを開催した。

	開催日	内 容	参加者数
第 1 回	11 月 22 日	『超指向性音響×まちづくり』 講師：西浦敬信教授（立命館大学情報理工学部）	10 人
第 2 回	1 月 13 日	『地域福祉×まちづくり』 講師：永野聡准教授（立命館大学産業社会学部）	31 人

第3回	2月3日	『脱炭素社会×まちづくり』 講師：依田祐一教授（立命館大学経営学部）	20人
第4回	3月8日	『食品ロス×まちづくり』 講師：天野耕二教授（立命館大学食マネジメント学部）	12人

<セミナーの様子>



《第1回 超指向性音響×まちづくり》



《第2回 地域福祉×まちづくり》



《第3回 脱炭素社会×まちづくり》



《第4回 食品ロス×まちづくり》

(e) 社会実験準備事業

草津市が包括協定を締結する7大学を対象にUDCBKの提示するテーマについて社会実験の提案を準備事業として委託している。

令和5年度は都市計画部と調整した上で施策への反映を重視し、都市デザイン・まちづくりにおいて草津市の課題となっている事象をテーマに設定した。草津市のまちづくり、特に南草津ビジョンの実現に貢献するような取組みを重視して募集し、審査を経て下記の事業を採択した。

■ 募集テーマ

- 1 ウォーカブルな健幸都市づくり
- 2 民間活力を活用した公共空間のにぎわい創出
- 3 駅周辺の交通環境の改善に向けた、公共交通の利用促進や交通ネットワークの形成
- 4 歩行者や自転車も安心して利用できる環境づくり

■ 採択事業

募集テーマ	応募事業名	応募大学	事業責任者名
1 ウォーカブルな健幸都市づくり	南草津にふさわしいウォーカブルな街路空間と巡礼ルートの作成	立命館大学	理工学部 木村 智 講師
2 民間活力を活用した公共空間のにぎわい創出	南草津駅西口におけるリサイクル資材を活用したファニチャー設置による滞留空間創出社会実験	滋賀県立大学	人間文化学部 大江 由起 講師
3 駅周辺の交通環境の改善に向けた、公共交通の利用促進や交通ネットワークの形成	南草津駅周辺を対象としたマルチエージェントシミュレーションに基づく施策効果検証メディアの確立	立命館大学	情報理工学部 服部 宏充 教授

※2、3の事業は南草津駅周辺における事業であることから都市デザインマネジメントスクールと連携しながら事業を実施。

＜社会実験準備事業の様子＞



《南草津にふさわしいウォーカブルな街路空間と巡礼ルートの作成》



《南草津駅周辺を対象としたマルチエージェントシミュレーションに基づく施策効果検証メディアの確立》



《南草津駅西口におけるリサイクル資材を活用したファニチャー設置による滞留空間創出社会実験》

※立命館大学の服部宏充教授による『南草津駅周辺を対象としたマルチエージェントシミュレーションに基づく施策効果検証メディアの確立』に関しては、シミュレーションシステムをUDCBKに設置(設置期間1月12日(金)～3月下旬)しており、その設置に合わせイベントを開催した。

開催日:令和6年1月12日(金)18時30分～参加者:13人

■ 社会実験準備事業成果報告会

開催日:令和6年2月28日(水)18時30分～ 参加者:17人

<成果報告会の様子>



(f) その他(産学公民連携による)

都市デザイン構想事業、社会実験準備事業の他に、地域や大学、産業界等と連携した事業を行い事業プロジェクトの推進を図る。

ア. MINAKUSAこだわりマルシェ(地域住民の活動団体との連携)

令和4年度に引き続き、南草津駅周辺における魅力ある滞留・交流空間の創出を目指し、南草津駅西口の東山道記念公園にて、公共空間である公園の利活用を図る。

当該マルシェは、『食』『緑』『教育』『文化』『環境』『健康』『交流』の7つのテーマを通して地域の良さを知り、地域の絆を育むことを目的に、草津市内の農家や地域のサークル等がブースを出店して、交流を深める場となっている。

【取組実績】

日 時:令和5年5月27日(土)場所:東山道記念公園店舗数:16ブース

参加者:約400人

<イベントの様子>



イ. みなくさまちライブラリー(地域住民の活動団体との連携)

本を通じて人が繋がり、交流が生まれることを目指し、UDCBKのオープンスペースの一角を利用し活動をしており、お気に入りの本を持ち寄り紹介する企画を実施した他、市内のイベントへ積極的に参加している。

【取組実績】

定例活動 毎月第4土曜日10時～12時 参加者:5人～10人

場所:オープンスペースおよび東山道記念公園

参加者同士がお気に入り本やおすすめ本を持ち寄り、意見交換を行うローカルダイアログや、特定のテーマについて意見を交わすイベントなどを実施し、本を通じたまちづくりを行った。

○イベント参加

5月27日(土)MINAKUSAこだわりマルシェ(場所:東山道記念公園)

8月19日(土)本とアイス(草津市立図書館主催イベント、場所:de 愛ひろば)

<左:ローカルダイアログの様子/右:イベント参加の様子>



(g) オープンスペース

ア.「それ、UDCBK でやってみませんか？」

地域・学生と交流したい、まちづくりへ参画してみたい、社会課題の解決に取り組みたいといった地域と学生がともに活動する拠点として UDCBK を活用いただけるよう働きかけを行った。

●立命館大学の学生団体「potential」による家電の分解企画

- ・事業名分解祭(ぶんかいまつり)
- ・目的家電の分解を通して機械の仕組みを勉強するとともに、共同作業によって子ども同士の交流を深めることを目的とする。
- ・開催日1月20日(土)13時～16時
- ・対象者草津市内の小・中学生参加人数58人(保護者含む)

イ. MINAKUSA BOARD

UDCBKや南草津エリアに対する意見を聴取し、南草津エリアのまちづくりに役立てるとともに、利用者との関係性を構築するための掲示板を設置している。

【取組概要】

2週間程度のスパンで、掲示板にてアンケートを継続的に実施する。

- ▶第1回：11月9日（木）～24日（金）＜回収数：延べ186人＞
質問：①今日はどこから来ましたか？②休日はどこで過ごしますか？
- ▶第2回：12月2日（土）～26日（金）＜回収数：延べ132人＞
質問：おすすめのお出かけスポットはどこですか？
- ▶第3回：1月19日（金）～2月10日（土）＜回収数：延べ85人＞
質問：最近買ったお気に入りは何ですか？

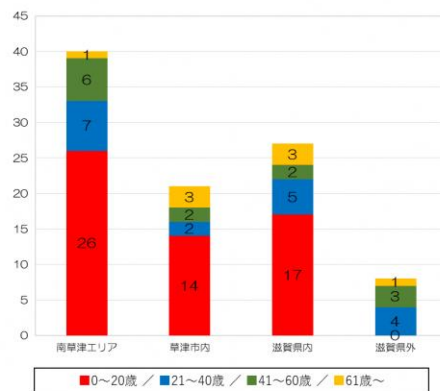
アンケートを通して、これまでオープンスペースの利用のみに留まっていた利用者がまちづくりについて意見を発信する機会を創出するとともに、集計結果についてはまちづくりや他の事業の参考とする。

<MINAKUSA BOARDの様子>

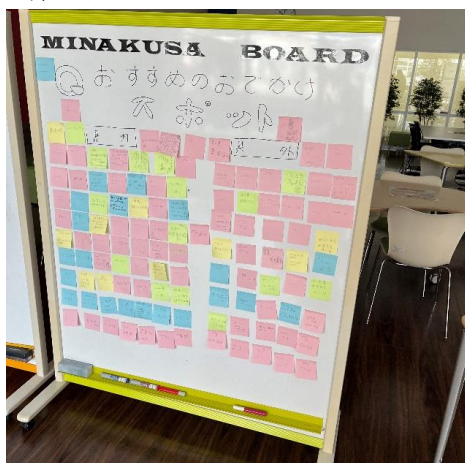
■第1回



Q1：今日はどこからきましたか？



■第2回



Q：県内のおすすめお出かけスポットは？

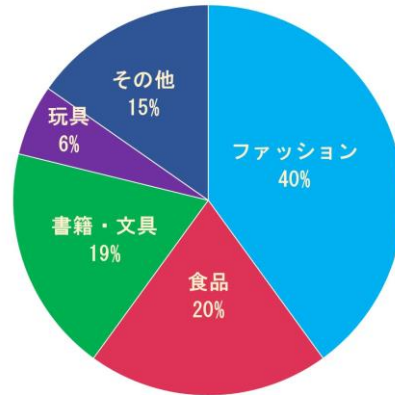
県立図書館	ブルーメの丘	de愛広場	ひばり公園	九嶋の滝
彦根城	石山駅	彦根城	空乃珈琲	佐川美術館
ラウンドワン	琵琶湖博物館	比叡山	ai葉広場	ラ・コリーナ
大津高校	アルブラザ草津	立命館前の坂	三井寺	大津駅上レストラン
えんまどう公園	イオン草津	竹生島	アイスアリーナ	居酒屋酔月
伊吹山	永源寺	白龍神社	近江や	矢橋帰帆島公園
パロー	めんたいパーク	メタセコイア並木	沖ノ島	石山寺
ラ・コリーナ	膳所高校	石山寺	シャンシャンタン	旧竹林院
ロクハ公園	de愛広場	竹生島	SORA	弾正公園
近江鉄道ミュージアム	アクト	瀬田川ぐるり散歩		
琵琶湖パレイ	守山図書館	矢橋帰帆島公園	彦根城	
メタセコイア並木	近江神宮	dessertcafeあおいそら		
竹生島	黒壁スクエア	沖ノ島	奥の洲	草津市内
MIHOMUSEUM	玉川中学校	温泉(天空の湯)	陶芸の森	

0～20歳 21～40歳 41～60歳 61歳～

■ 第3回



Q：最近買ったお気に入りは何ですか？（カテゴリー別割合）



3 情報発信にかかわる活動

(1) 調査研究報告書の配付

2022(令和 4)年度に実施した調査研究の報告書を作成し、以下のとおり配付した。

- ・庁内各課及び副部長以上
- ・草津市議会議員
- ・自治体シンクタンク等 12 箇所
- ・包括協定 7 大学 1 高等学校
- ・市立図書館、県立図書館

(2) 調査研究報告会

2022(令和 4)年度に実施した調査研究について、庁内に向けて報告会を開催した。



開催日	主催	内容
2023(令和5)年 6月5日	草津未来研究所	対象：どなたでも参加可能 場所：草津市役所 8 階大会議室 参加人数：34 名

(3) ホームページ・SNS

アーバンデザインセンターびわこ・くさつ(UDCBK)の事業活動や、2022(令和 4)年度調査研究報告書等を市ホームページに掲載した。また、UDCBK 事業については、Facebook に加えて令和4年1月から Instagram での情報発信を行うなど、さまざまな方法でUDCBK の活動を発信した。

■Instagramでの情報発信

情報発信:65回発信(令和5年4月～令和6年3月末)

いいね数:692人

フォロワー数:217人

■Facebookでの情報発信

情報発信:65回発信(令和5年4月～令和6年3月末)

いいね数:680人

フォロワー数:753人

(4) 未来通信およびニュースレターの発行

【未来通信】各府省のホームページや新聞、情報誌等から得た情報を整理したうえで、市職員に向けて情報発信した。令和5年度は14回(No.123からNo.136まで)発行した。

【ニュースレター】草津未来研究所に関連するニュースやトピック等を市職員に向けて情報発信した。令和5年度は4回発行した。

4 その他の活動

(1) 自治体シンクタンク研究交流会議

「第9回自治体シンクタンク研究交流会議」が令和5年11月10日(金)に愛媛県西条市役所で開催され、角副所長が参加(肥塚顧問はアドバイザーボードとして参加)し、地域の課題と自治体シンクタンクの役割等について議論するとともに、他団体との交流を深めた。

(2) 幸せリーグ(出席者:研究員)

東京都荒川区が設立した「住民の幸福実感向上を目指す基礎自治体連合(通称:幸せリーグ)」に参加(令和6年3月1日現在、68自治体が参加)している。総会は書面決議となったが、実務者会議(講演会:令和5年11月10日、意見交換会:令和6年3月15日)にオンラインで参加した。

(3) 視察の受け入れ

6団体の視察を受け入れ、草津未来研究所およびUDCBKにおける設立経過と取組内容等について説明を行った。

	受け入れ日	都道府県	視 察 団 体	受け入れ先
1	7月26日	広島県	三次市	草津未来研究所 UDCBK
2	8月1日	北海道	江別市	UDCBK
3	11月22日	福岡県	大牟田市	UDCBK
4	1月25日	滋賀県、三重 県、京都府	パナソニック議員団	UDCBK
5	1月26日	岐阜県	瑞穂市	草津未来研究所 UDCBK
6	3月29日	岡山県	倉敷町屋トラスト	UDCBK

(4) 法人化の検討

草津市はUDCBKを立ち上げ産学公民連携での都市デザイン・まちづくりを構想できる場を整備しているものの、発足時より市事業として展開されており、全国のUDCでも珍しい運営形態をとっている。しかし、全国UDC会議への参加などから、各地のUDCの状況や活動、あるいはオープンスペースの活用等、今後のUDCBKのあり方について検討を進めている。

■全国UDC会議

日 時:令和5年11月25日(土) 13時30分～

場 所:長野県上田市 信州大学内 ※WEBでの参加

プログラム:

○UDC信州セッション … UDC信州の活動紹介

○UDCフラッシュトーク … 各地のUDCからの活動紹介・話題提供

→UDCM(松山)では、大学生の企画によるまちのにぎわいづくりイベントが開催されており、UDC2(柏)においても、若者を中心としたまちづくり実験が実施されていると情報共有があり、大学生や中高生がまちづくりに参加いただくためのアイデアとして参考にしていきたい。

○グループセッション … 現地参加者による参加型討議

■今後のUDCBKのあり方について

市が独自で取組を進める手法ではなく、エリア内のステークホルダーを巻き込み、UDCBKが掲げる産学公民が様々な知見を持ち寄り、それぞれが主体的に考え、プレイヤーとなり得るプラットフォームを構築することを目指す。令和6年度は年度末にプラットフォーム組成することを目指し、産学公民の多様な主体により組成に向けた具体的な議論を行う。

これまでUDCBKの取り組みなどに対して助言や提案をいただく場としての「アーバンデザインセンターびわこ・くさつ事業運営懇話会」はプラットフォームへと引き継ぎ、助言や提案だけでなく、構成するメンバー自らが考えプレイヤーとして行動するような組織を目指す。

Ⅲ 運営体制

【スタッフ】

・草津未来研究所		
所長	天野 耕二	立命館大学食マネジメント学部長
副所長	岡井 有佳	立命館大学理工学部教授
副所長	角 一朗	草津市総合政策部副部長
運営委員	橋本 貴彦	立命館大学経済学部教授
運営委員	清家 理	立命館大学スポーツ健康科学部教授
顧問	肥塚 浩	立命館大学大学院経営管理研究科長
統括研究員	山本 一成	草津市総合政策部草津未来研究所統括研究員
再任用職員	田中 祥温	草津市総合政策部草津未来研究所参与
研究員	山本 裕美	草津市総合政策部草津未来研究所主査
・アーバンデザインセンターびわこ・くさつ（UDCBK）		
センター長	岡井 有佳	（再掲）
副センター長	高田 剛司	立命館大学食マネジメント学部教授
副センター長	阿部 俊彦	立命館大学理工学部准教授
チーフディレクター	竹中 和哉	草津市総合政策部草津未来研究所チーフディレクター
ディレクター	山口 陽平	草津市総合政策部草津未来研究所ディレクター
会計年度任用職員	田中 清子	草津市総合政策部草津未来研究所
会計年度任用職員	石井 聡子	草津市総合政策部草津未来研究所

（2024年3月末現在）

【運営会議の開催】

	開催日	開催内容
第1回	2023(令和5)年5月15日	<ul style="list-style-type: none">・2023(令和5)年度未来研究所の体制について・2022(令和4)年度調査研究・事業報告について・2023(令和5)年度事業計画・調査研究について・都市政策懇話会のテーマ案について
第2回	2023(令和5)年8月30日	<ul style="list-style-type: none">・2023(令和5)年度の調査研究、UDCBKの進捗状況報告
第3回	2023(令和5)年12月4日	<ul style="list-style-type: none">・2023(令和5)年度の調査研究、UDCBKの進捗状況報告・2024(令和6)年度の調査研究テーマ案について
第4回	2024(令和6)年2月26日	<ul style="list-style-type: none">・2023(令和5)年度の調査研究、UDCBKの進捗状況報告・2024(令和6)年度予算内示状況について・2024(令和6)年度の調査研究テーマ案について

草津市総合政策部草津未来研究所

令和5年度事業報告書

2024年3月 発行

草津市 草津未来研究所

〒525-8588 滋賀県草津市草津三丁目13番30号

TEL 077-561-6009 FAX 077-561-2489

E-Mail kusatsumirai@city.kusatsu.lg.jp

アーバンデザインセンターびわこ・くさつ（UDCBK）

〒525-0059 滋賀県草津市野路1丁目13番36号 西友南草津店1階

TEL 077-562-3932 FAX 077-562-9323